

ア
児童の状況

自己評価Aと外部評価の区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 自主的・自律的な生活

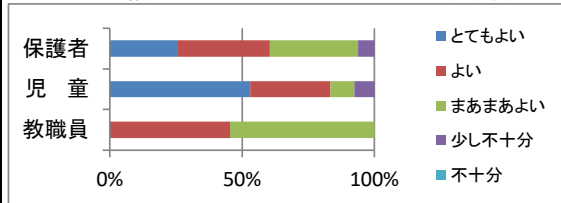
評価項目	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
基本的な生活習慣を身に付け、主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	6年生の音楽の授業では、挨拶や礼が徹底されていた。ヒヤリングした子どもたちはみんな学校が楽しいと答えていた。児童数が少なくなってきたが、全校が一致団結していると感じた。
	後期	おおむね良好	良好	今後もあいさつ運動等で、地域を巻き込んであいさつを行うようにして行ってほしい。また、私たち地域の大人も率先してあいさつを行うようにしていきたい。
と自己校評の価値の善概要	【前期(→後期)】「挨拶」については、挨拶リーダーや運営委員会によるあいさつ運動の成果もあり、進んで気持ちのよい挨拶をする児童が多く見られる。東館小のよさとして、つないでいきたい。「規律ある生活」では、集会時の話の聴き方や活動の始めと終わりの挨拶が、きちんとできていない場面が見られた。2学期は、集会等集合した際の気持ちの持ち方を指導し、準備を整えてしっかり話を聴くこと、きちんとできていない時はOKを出さない、など全職員と児童で意識を統一して取り組んでいく。			
	【後期(→次年度)】アンケート結果では「挨拶・言葉使い」で、児童と職員からの評価がやや下がっているが、保護者からの評価は微増している。このことから、児童の挨拶自体は決してよくない訳ではなく、挨拶の頑張りを認める工夫や手立てが必要なのではないかと考えている。「規律ある生活」では、廊下の歩き方等以前に比べて自分たちで意識して行動する姿も見られる。時を逃さず、その場で指導を重ねていくことが大切である。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1)生活習慣の定着	あいさつ運動の推進 時と場に応じた言葉遣いの指導	4	3
	(2)規律ある落ち着いた生活	校内のルール・マナーの指導	3	3
2 自主的・実践的な態度	(3)自分の考えを生かした活動	係活動・委員会活動の推進	4	4
	(4)集団の一員としての活動	学級会活動・クラブ活動の推進	4	4

[評価指標1]

(1)元気なあいさつと正しい言葉遣い

平均値 保護者(3.6)→3.7 児童(4.5)→4.3 教職員(3.8)→3.5



【あいさつがんばり賞の表彰】

運営委員会が「あいさつをよくがんばっている学年」を表彰しました。毎日のあいさつ名人の紹介では、「声の大きさ」「相手の目を見て」「立ち止まって」など、その人のあいさつのよいところを伝え、全校児童に紹介しています。



【ナイス！言葉づかい運動】

9月は、「相手の気持ちを考えて話そう」というめあてで取り組みました。名札にハートマークのワッペンを貼り付けて、友達の気持ちを意識できるように工夫してみました。特に、低・中学年には効果がありました。



【係活動・当番活動】

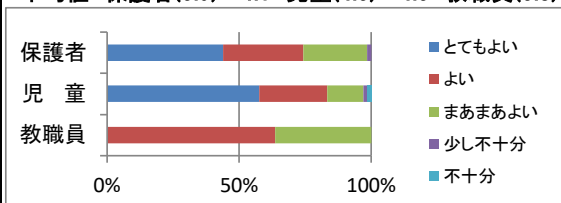
各学級で話し合い、それぞれの実態に応じて、係活動・当番活動に取り組んでいます。どうしたら、クラスのみなが気持ちよく過ごせるか、仲よく生活できるか、子どもたちなりにアイデアを出し合って活動しています。



[評価指標2]

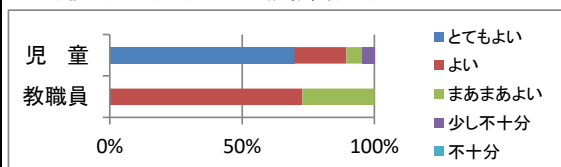
(3)自分の考えを生かした活動

平均値 保護者(3.9)→4.1 児童(4.3)→4.3 教職員(3.8)→3.6



(4)集団の一員としての活動

平均値 児童(4.6)→4.6 教職員(4.0)→3.7



ア 児童の状況

Ⅱ 思いやりの心 たくましい心

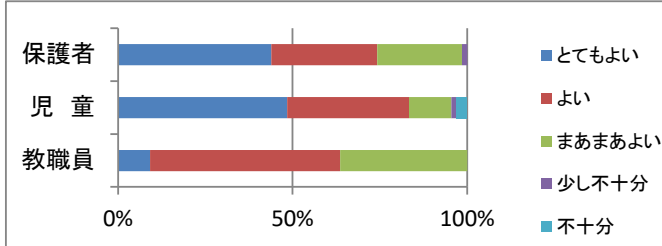
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いを認め合い、高め合いながら、学校生活を送り、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	おおむね良好	良好	ヒヤリングした子どもたちはとても素直だった。保護者からも、高学年が低学年の面倒をよく見てくれるので安心しているとの声があった。やさしさはあるが、中学校に進級したとき他校の生徒に負けないような覇気ももてるよう指導してほしい。
	後期	良好	良好	子どもたち同士の関係は良好である。教員と子どもたちとの関係もよかった。
学自己校の改善の概要と	【前期(→後期)】	感染症予防のため、異学年交流がなかなか実施しにくい状況ではあるが、工夫を凝らして友達や他学年との交流機会を設定し、思いやりや助け合いの気持ちを育てていきたい。また、2学期は「キラッとさん」の紹介など、お互いのよさを認め合う場をより多くの機会に設定して、実践していくことを職員間で共通理解した。		
	【後期(→次年度)】	2学期はマラソン記録会や学習発表会、心のかげ橋フェスティバル等があり、自分のめあてに向かって努力したり友達と協力して何かを成し遂げるという機会が多かった。めあてカード等を活用して自分の頑張りを振り返る時間をもつことで、自分自身の成長に気付いた子どもが多い。保護者からは学習発表会の感想を多数寄せていただいた。これも子どもたちの満足感・達成感につながったと思う。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな心と向上心	(5) 相手を思いやり助け合う心	特別の教科道徳の充実 異学年交流	4	4
	(6) 自分を高めようとする意欲	目標達成に向けた取組 一人一人の活躍と称揚の場の設定	3	4
4 集団生活・集団行動	(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級	互いのよさを認め合う場の設定	4	4

[評価指標3]

(5) 相手を思いやり助け合う心

平均値 保護者(4.0)→4.2 児童(4.3)→4.2 教職員(3.7)→3.7

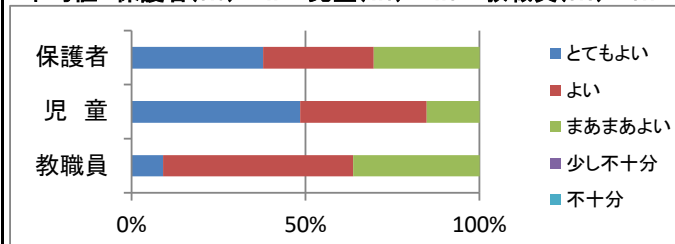


【ハッピーフラワー運動】

11月はボランティア委員会の児童が、みんなのメッセージを給食の時間に紹介しました。メッセージを書いた人も紹介された人も、思わずにっこり。聞いている子どもたちも優しい気持ちになれる、よい取り組みでした。

(6) 自分を高めようとする意欲

平均値 保護者(3.9)→4.1 児童(4.3)→4.3 教職員(3.8)→3.7



【めあてカードの活用】

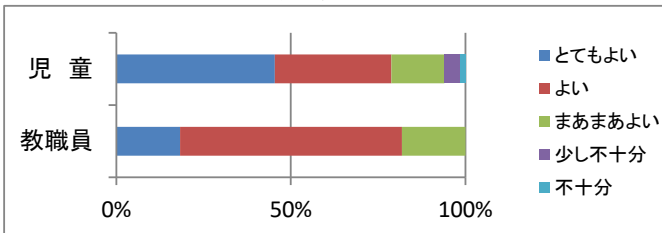
子どもたちは学校の教育目標「3H」を基にしためあてカードで毎月のがんばりを振り返っています。自分自身を見つめる時間をもつことで、自身の変容や成長を感じ、さらなる目標に向かって頑張ろうとする東小っ子を目指しています。



[評価指標4]

(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級

平均値 児童(4.4)→4.2 教職員(3.9)→4.0



【道徳の時間の充実】

道徳の授業が日頃の自分たちの生活に生きるよう、それぞれの学年で工夫しています。道徳コーナーの設置や帰りの会でのキラッとさんの紹介等、お互いのよさに気付いたり、自分を高めたりできるように、日々の生活に生きる道徳の授業になるよう心掛けています。

ア 児童の状況

Ⅲ 健康と体力

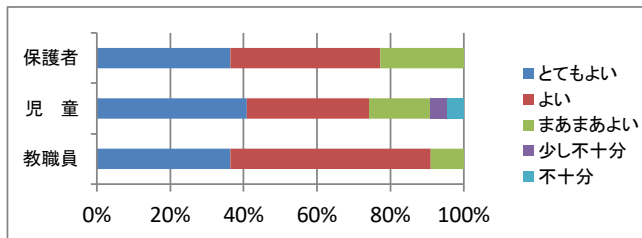
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組もうとしている。	前期	良好	良好	体力向上や健康な生活に対する取組はよく行われている。スポ少活動も盛んである。保護者は、ニュース等で報道されているSNSにおけるいじめをとて心配していた。児童・保護者ともに注意喚起する施策を実施してほしい。
	後期	良好	良好	様々な講師から食や健康について指導を受けてきているが、手紙を書いたりするなど感謝の気持ちの表し方がよかった。メディアとの関わり方については、今後も指導方法を工夫し子どもたちがコントロールできるようにして欲しい。
校自の己改善評価の概要と学	<p>【前期(→後期)】健康な生活習慣の定着では、生活習慣とメディアに関する実態調査の実施や、1学期中に手洗い指導とはみがき指導を実施できたことなどから数値が上がったと思われる。また、望ましい食習慣の形成については、栄養教諭と連携した食育指導を継続していきたい。体力と運動能力の向上については、運動会や体力テストの実施など、昨年度よりも運動に親しむ環境が増えているため、結果を活用しながら、楽しんで体力アップできるような環境づくりを行っていく。健康ちょい金通帳は、保健活動だけでなく、食育や体力アップについても取り入れて、1年間を通した継続的な指導を行い、健康力アップにつなげていく。</p> <p>【後期(→次年度)】健康な生活習慣の定着では、メディア使用のルールを意識して生活することができるよう、継続して呼びかけていく必要がある。すこやかチャレンジカードなどを通して、現状を把握して課題を設定して取り組んでいく。体力と運動能力の向上では、外遊びなど積極的に体を動かす児童が多い一方で、感染症の影響により全校での遊びや、縦割り班での遊びなどを行う回数が減ってしまった。状況にもよるが、委員会活動とも連携し、運動を楽しんでいるとすることができる活動を行っていく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 保健・食育の状況	(8)健康な生活習慣の定着	保健指導の充実 家庭への啓発活動 健康な生活習慣アンケート	4	4
	(9)望ましい食習慣の形成	給食指導を通した食育 家庭への啓発活動 栄養教諭との連携	4	4
6 体力づくり	(10)体力と運動能力の向上	体育の授業の充実 体力テストの活用 外遊びや運動の奨励 体育環境づくりと整備	4	4

[評価指標5]

(8)健康な生活習慣の定着

平均値 保護者(4.1)→4.1 児童(4.2)→4.0 教職員(4.2)→4.3



【かぜ予防プロジェクト】

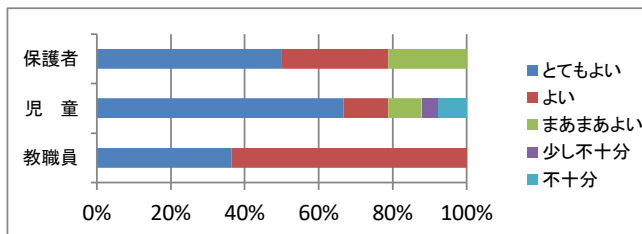
感染症予防のため、健康委員会がさい川タイムに各教室を回り、霧吹きを噴霧するとともに、換気を行い過ごしやすい環境を保つ活動を行いました。

【メディアコントロール】

年間を通して、メディア使用の時間を確認したり、生活習慣を見直したりするための「すこやかチャレンジ」や、長期休業明けに、生活リズムを乱さないために、「冬休み生活リズムチェックカード」を実施し、自分の生活について児童や、保護者が振り返る機会を設けました。

(9)望ましい食習慣の形成

平均値 保護者(4.2)→4.3 児童(4.3)→4.3 教職員(4.2)→4.4



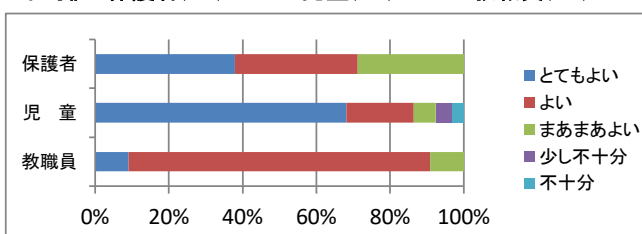
【食に関する指導】

栄養教諭に來校してもらい、各学年、発達段階に応じた食育指導を実施しました。5年生では、家庭科の学習と連携し、「だし」の試飲を通して、それぞれのだしの特徴を体感しました。

[評価指標6]

(10)体力と運動能力の向上

平均値 保護者(4.1)→4.1 児童(4.6)→4.4 教職員(4.0)→4.0



【全校での運動や遊び】

健康委員会の活動を通して全校で、または、縦割り班で運動を企画し行いました。

1月の「びよんびよんデー」では、新型コロナ対策として、各学年ごとの実施となってしまいましたが、長縄跳び大会を行いました。

ア 児童の状況

IV 基礎学力

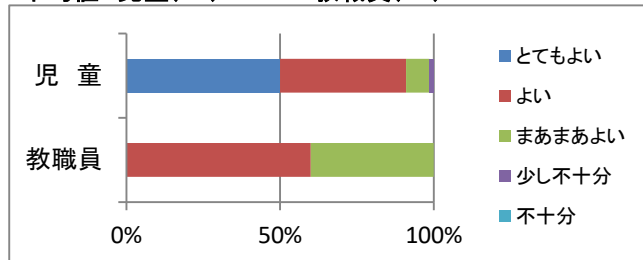
児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組み、学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	新年度複式学級となることに保護者は不安を抱えているようだ。授業参観では、挙手する子が少ない場面があり、もっとたくさん手が上がるよう工夫してほしい。
	後期	おおむね良好	授業参観では、どの学年も意欲的に学んでいた。タブレットコンピュータもよく活用されていた。今後も、学ぶ楽しさを味わえるような授業づくり心がけてほしい。
自己評価改善の概要と	<p>【前期(→後期)】子どもたちの評価は高く、意欲的に頑張っている。ここ数年、話すことに力をいれて取り組み、少しずつ力を伸ばしている。しかし、「話を聞く」態度・姿勢については、まだまだである。そのことが、自己評価のポイントを下げている。そこで、今後は、基本的な学習習慣の定着の「話を聞く」ことに力を入れ、取り組んでいきたい。話を聞くことに対しては、教職員で足並みをそろえ、同じ指導で進め、力を伸ばしていきたい。また、基礎学力の向上するために、授業力向上に取り組みたい。授業を見合うアクティブツアーを実践し、学び合う機会を増やしたい。</p> <p>【後期(→次年度)】後期は、基本的な学習習慣の定着の評価が高くなった。集会でのルールの確認、カードでの振り返り等で、普段から意識して取り組めたことが要因だと感じる。反面、主体的な学習態度について、評価を下げている。次年度は、さらに、主体性を高めるために、朝ドリルの時間で漢字計算力アップのためにドリルの活用するなど計画的に取り組ませたい。また、家庭学習の充実のために各学年ごと目標を設定し、取り組ませるなど工夫をして充実した家庭学習になる取り組みを行いたい。また、アクティブツアーを継続して行い、学び合う機会を増やし、主体的な学習態度につながるようにしたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 学習への取組	(11) 基本的学習習慣の定着	聞き方・話し方指導の徹底 「学習の7か条」の徹底 ハンドサインの活用 ノートの使い方指導 家庭学習の励行	3	4
	(12) 基礎学力の定着	学習が定着する授業の構築 パワーアップタイム 東小っ子テスト	3	3
	(13) 主体的な学習態度	学び合いの場の確保 学習課題の吟味 指導方法の工夫	3	3
8 諸検査の状況	(14) 学習状況調査・学力検査等の結果の改善	実態把握と課題分析 回復指導の実施 →新型コロナ禍のため、諸調査・検査が実施できず	3	3

[評価指標7]

(11) 基本的学習習慣の定着

平均値 児童(4.2)→4.4 教職員(3.4)→3.6

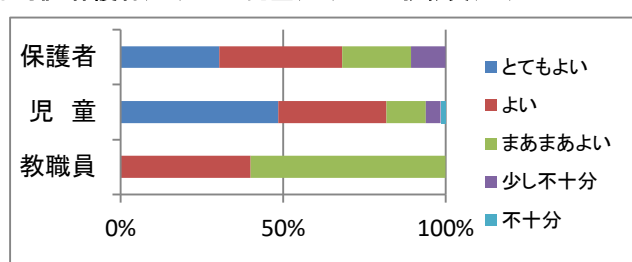


【全校朝会で学習のルールを確認】

どんな話し方がよいのかを、全校で話し合っ、聞き方の約束を確かめ、その後、チェックシートで学習の約束が守れているかを自己評価した。

(12) 基礎学力の定着

平均値 保護者(3.8)→3.9 児童(4.3)→4.2 教職員(3.2)→3.4

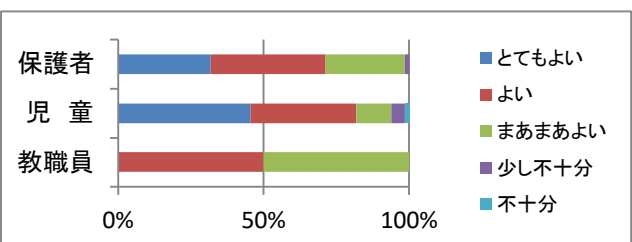


【さくらんぼタイムⅡ】

SDGsをテーマに、自分達は、何ができるのかを話し合った。学団ごとにグループや集団で話し合いを行った。

(13) 主体的な学習態度

平均値 保護者(3.9)→4.0 児童(4.4)→4.2 教職員(3.8)→3.5



【アクティブタイムの実施】

学びを深める発問や、支援を工夫したアクティブタイムを行い、対話的に学び合い、課題を解決しようとしている。

ア 児童の状況

V 組織運営

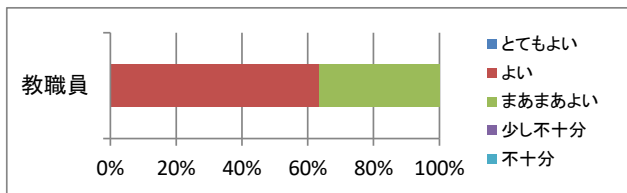
児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
重点目標の具現化に向けて、特色ある学校づくりが、計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	良好	児童数や職員数が減少する中で、特色ある学校づくりに向かっていろいろな事業を前向きに取り組んでいる。PTAも改革に取り組んでいる。
	年度	おおむね良好	良好	今後も各指導部で、明確な目標を立てて重点項目や施策を決めて取り組んでほしい。
校自己改善評価の概要と学	【前期(→後期)】各指導部の取組及び授業改善と指導力の向上は3点台後半の評価で、後期に向け改善策を講じなければならないと考える。指導部の取組については、過去の施策にとられず、児童の実態に応じた柔軟な発想が必要である。それと同時に、教職員の減少が避けられない状況の中で、日常の取組で気付いたことをすぐに声に出し合い、改善に向けて手を打つ体制にすることが必要と考える。(18)授業改善と指導力の向上については、今年度から取り組んでいる「アクティブツアー」に「自分だったらどう指導するか」を一人一人が意識しながら積極的に参加することで、より効果的な研修とすることができるのではないかと考える。			
	【後期(→次年度)】(15)(16)の教師による評価が前期よりもポイントが下がってしまったのは、各指導部から提案される施策が、重点的に取り組んでいる期間は効果が上がっているが、しっかりと定着していないことによると考えられる。(17)については、各学年で東館の特色を生かしたふるさとキャリア教育が実施され、その成果を児童も教師も実感できたことによると思われる。(18)については前期とほぼ同じ評価であるため、各自の授業改善のためアクティブツアーの継続や、「授業を見合う会」を設定するなど指導力の向上に努めたい。次年度は全職員が同一方向を向き、目指す児童像の具体的な姿を共通理解した上で、児童の実態を十分に把握して重点項目や施策を考えていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 教職員の学校運営参画	(15)経営方針や重点目標・施策の共通理解	実態把握による重点施策(東館3つのH)の設定と明示	4	3
	(16)各指導部の運営と実践	「東館3つのH」の施策の提案 組織的な取組の実践	3	3
10 教育課程の編成と実施	(17)特色ある教育課程	ふるさとキャリア教育の推進 円滑な教育課程の実施	4	4
11 職員研修	(18)授業改善と指導力の向上	研究テーマに基づいた授業実践 授業研究会の充実 各種研修会への参加	3	3

【評価指標9】

(15)経営方針や重点目標・施策の共通理解

平均値 教職員(4.1)→3.6



★「東館3つのH」の施策の提案と具体的な取組

9月 実行力アップパート2(生徒指導部)

～ナイス！言葉づかい 相手の気持ちを考えて話そう～

家庭での基本的なあいさつがきちんとできる子ども、相手のことを考えた言葉づかいができる子どもを目指して、カードを活用して意識付けを図ることができた。

10月 話し力アップ(学習指導部)

～アクティブに発信しよう～

家学習発表会の成功に向けて、口の開き方・声の大きさ・意図が伝わるような話し方などの話し方指導と、話し手を見て聞く・最後まで聞く・大事なことをメモしながら聞くなどの聞き方指導を重点的に行った。

11月 実行力アップパート3(生徒指導部)

～キラッとさんをさがせ！～

みんなのためによい行いをした友達やがんばっている友達を全校で紹介する取組を行い、カードに書いて掲示するほかに放送でも紹介し、子どもたちの意欲付けを図った。他学年の人も紹介するなど、いろいろな人のよいところ目を向けるよい機会となった。

12月 学習をパワーアップしよう(学習指導部)

県学習状況調査やCRTに向け、これまでの学習の復習に取り組んだ。学級全体で落ちているところを中心に計画的に学習を進めたことで、子どもたちの理解が深まった。諸検査の結果を分析し、進級までの間に一人一人の理解と定着を促したい。

1・2月 健康力アップパート3(保健体育部)

生活リズムを整え、健康力をアップさせよう！

★各学年のふるさとキャリア教育

1年: さつまいもde料理 保育園との交流会

2年: 比内図書館見学 さつまいもde料理

3年: とんぶり栽培活動の紹介

4年: とんぶりレシピ開発 とんぶり販売

5年: 米の収穫と販売

6年: 十狐マイスター(大葛の紹介) お仕事調査隊



さつまいもde料理



とんぶり栽培活動の紹介
とんぶり栽培の活動について、川口小とオンラインで交流。



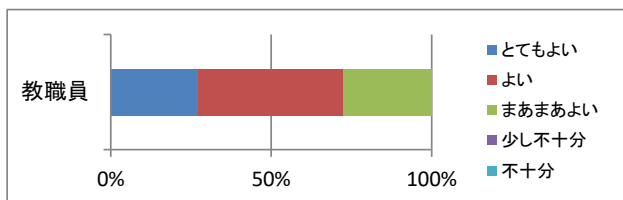
お仕事調査隊

6年生が企画・運営し、6つの職業についてお話を伺った。

【評価指標10】

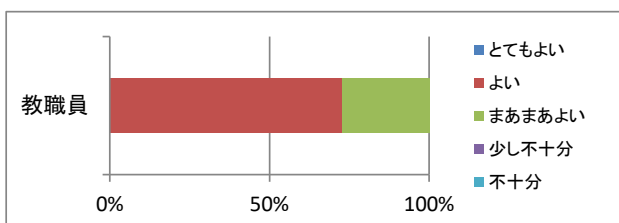
(17)特色ある教育課程

平均値 教職員(4.0)→4.0



【評価指標11】

(18)授業改善と指導力の向上 平均値 教職員(3.8)→3.7



ア 児童の状況

VI 保護者・地域との連携

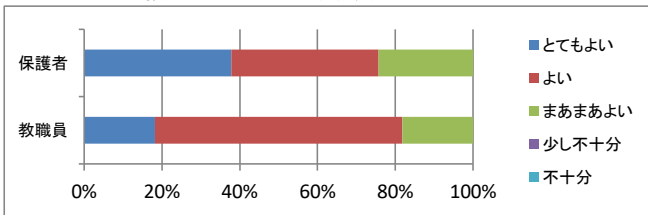
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取り組みが分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	児童数の減少は、コロナ禍にあっては好都合だったかもしれない。児童数の減少により、現在の地区部を中心とした校報の配布が難しくなっている。行政協力員の協力を得るなど、地区全戸配布の形を探っていきたい。
	後期	良好	良好	地域を巻き込んで創立150周年を迎える方向付けをし、150周年に向けて地域がまとまり、盛大にお祝いができるようにしてほしい。
学自 校己 の評 価 善 の 策 要 と	【前期(→後期)】	(19)の情報発信、(21)の地域の効果的な活用は、保護者・教職員の評価が共に4を上回り良好な状態である。今後もより充実した情報発信、より積極的な地域素材・人材の活用を図っていきたい。(20)は、教師の自己評価のみであるが、昨年度より大幅に向上していた。これは、昨年度は初めてのコロナ禍でPTA活動等が手探りの状態であったが、今年度は、同じ状況下でも家庭教育学級をはじめPTAの諸会合等が計画的に実施できているからと思われる。今後コロナ禍がどのような形で拡散・終息していくか不明であるが、そのときそのときの状況下でできる最大限の保護者・地域との連携を模索していく必要がある。		
	【後期(→次年度)】	(19)情報発信は教職員が0.1ポイント減であるが保護者・教職員とも4以上となっている。また、(20)情報収集も教職員で0.1ポイント減であるが4以上を維持している。前期同様、コロナ禍でもやるべきことを着実に実践してきているためと考えられる。(21)地域素材人材活用は、保護者0.1・教職員0.3向上しているが、教職員から「地域への声かけが弱かった」という声が出ている。学年によって活用に差があったと考えられる。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
12 情報の受発信	(19)学校の様子が伝わる情報発信	魅力ある学校報・学年通信・ホームページ・ブログ等による情報の発信	4	4
	(20)保護者・地域からの情報収集	PTA諸会合 家庭訪問 個人面談 保護者アンケート 学校評議員会等の開催	4	4
13 地域の教育力の活用	(21)地域素材や人材の効果的な活用	地域学習材の活用 体験学習の推進 授業や諸活動でのゲストティーチャーの活用	4	4

【評価指標12】

(19)学校の様子が伝わる情報発信

平均値 保護者(4.1)→4.1 教職員(4.1)→4.0

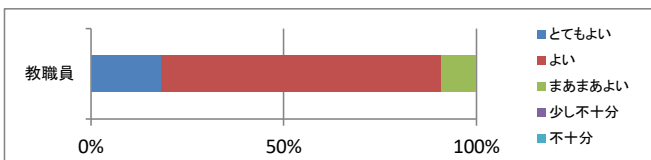


【学校の様子が伝わる情報発信等】

- ①隔週発行の各学級の「学級だより」
- ②毎月末発行の学校だより「犀川」の学区全戸配付
- ③ホームページによる学校評価等の開示
- ④ブログによる日々の教育活動の紹介
- ⑤新聞記事への掲載 ※掲載は10月～2月に8回
(洪水想定防災訓練、心のかけ橋フェス等)
- ⑥テレビ放映 ※10月～2月に4回
(心のかけ橋フェスは2社、安全指導わたりジョーズ君等)
- ⑦一斉メール配信

(20)保護者・地域からの情報収集

平均値 教職員(4.2)→4.1



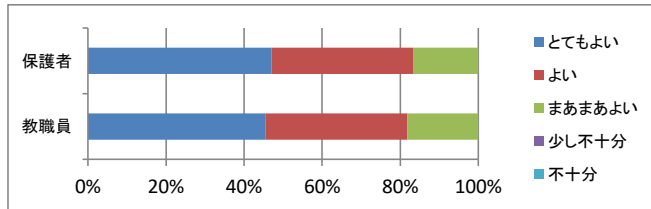
【保護者・地域からの情報収集】

- ①2学期末PTAにおける学級懇談の実施
- ②心のかけ橋フェスティバル(祖父母ふれあい交流会)
だまご鍋会食を通じた交流における情報収集
- ③各学年親子レクでの情報交換
後期…10/16 6年部, 10/24 2年部, 11/14 3年部

【評価指標13】

(21)地域素材や人材の効果的な活用

平均値 保護者(4.2)→4.3 教職員(4.0)→4.3



【人材の効果的な活用】

- ①正課クラブ…「将棋クラブ」「ふるさとクラブ」…前期と同じ方々の協力
- ②とんぶり栽培、販売・調理…本間均さん、武田敏子さん、武田啓子さん、PTA4・5年部
- ③稲刈り…田島英一さん、幸子さん
- ④お仕事調査隊(3～6年)…パティシエ、消防署員、薬剤師、看護師、警察官、コンビニオーナーの職種より6名
- ⑤租税教室…大館税務署より2名
- ⑥読み聞かせ…読み聞かせカルテットのみなさん
- ⑦食育指導…比内給食センター栄養教諭
- ⑧PTA家庭教育学級…秋田市の「ケアハウスここはぐ」より助産師さん2名
- ⑩スキー教室…比内スキークラブ2名、大館スキークラブ1名、自然の家1名、地域の方1名、保護者18名の指導協力者
- ⑪一花一葉運動(1・2年)…JA1名、花卉栽培農家1名、生花店2名

【地域素材の活用】

○総合的な学習の時間

3年 学習発表会でのとんぶり販売の際のPR。とんぶり加工所見学。とんぶり学習のまとめを2学期末PTAで川口小3年のネギ学習と交流し発表。

4年 とつと館前でとんぶり販売。2学期末PTAで、親子でとんぶり料理「T1グランプリ」。学習発表会でのとんぶり販売。

5年 とつと館前や学習発表会での米販売。

6年「お仕事調査隊」…6つの種類の職業の方を招き、3～6年生が仕事について調査する活動を運営。大葛について学んできたことをパワーポイントでまとめ、5年生に発表。

○生活科

・1・2年遠足…ペニヤマ自然パーク



11.12 一花一葉運動



11.25 洪水想定防災訓練